

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	愛の家グループホーム札幌平岡(えにし)	評価実施年月日	平成21年7月1日～7月31日
評価実施構成員氏名	○管理者 井幡 摩希子 ○ユニットリーダー 竹本 慎 介護従業者 早川 和子 ・ 中山 順子 ・ 仲川 なつみ ・ 清永和子 ・ 東海富士子 ・ 濱邊 浩平		
記録者氏名	竹本 慎	記録年月日	平成21年8月6日

北 海 道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	三つの理念を掲げている。	<input type="checkbox"/> 運営推進会議を定期的に行い地域の方々、あるいは御家族様と話し合いをする時間を作っている。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	実践者研修や、その他の研修の時は必ず理念についての理解を深める講習を受けている。	<input type="checkbox"/> 毎朝の朝礼の時には必ず三つの理念を復唱し再確認している。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	町内会の方がボランティアで絵手紙を教えに来てくれ、町内会・入居者が一緒に取り組みをしている。	<input type="checkbox"/> 入居様様が仕事などを通じて、どの様に地域の中に溶け込んでいるかを報告している。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	町内行事への参加。散歩時には近所の方々への気軽に挨拶をする。	<input type="checkbox"/> 毎日の町内の散歩や、近所のスーパーへの買い物などに行っている。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	縁日(夏祭り)などを開催し町内の方々にも参加して頂く。盆踊り、花火大会に参加している。	<input type="checkbox"/> 縁日などには焼肉や、よさこい、ゲームなどを招待状を配って来て楽しんで頂いている。
6	<input type="checkbox"/> 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	運営推進会議を二ヶ月に一度行っている。	<input type="checkbox"/> 随時、内覧の方を受け入れホーム内をご案内している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>評価の結果を、スタッフがいつでもみる事が出来る場所に置き、又、スタッフ会議等で反省すべき点について話し合う。</p>	○	スタッフが分担にて自己評価を行っている。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>運営推進会議では、ホームでの活動状況、取り組み等を報告している。前回の運営推進会議で取りあげられた検討事項についても報告等行い改善に取り組んでいる。</p>	○	運営推進会議での話した事を、まとめいつでも見る事が出来る。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>区で開催している研修に職員も交代で参加しサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	○	今後も外部研修に積極的に参加していきたい。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>地域権利擁護事業や成年後見制度についてスタッフ間で理解出来ている者は少ない。</p>	○	様々な勉強会の場に出席しスキルアップして行きたい。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p> <p>スタッフ会議などで話し合いの場を持っている。介護するにあたって虐待になるかならないかの判断を話し合い、相談している。</p>	○	話し合いの場を設けている。ベット柵については転落防止として使用している。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>入居時に重要な事、医療に関する事など説明し不明な点には質問を受けている。</p>	○	入居希望の方や内覧の方には十分に当ホームの方針を説明している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>随時、職員へ伝えて頂くようにしている。</p>	<p>○</p>	<p>御家族様とは常にコミュニケーションが取れる様、又話しやすい雰囲気を作り、聞けた事は実行している。</p>
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>利用者、個々に担当を決め定期的に、お便りを発行している。</p>	<p>○</p>	<p>面会時などにしっかりと時間を設けた話し合いや報告が必要。</p>
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>随時、受け入れている。運営推進会議においても、受け入れ、反映されている。</p>	<p>○</p>	<p>随時、受け入れ態勢の継続。</p>
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>スタッフ会議においての聞き取り、又は随時、意見、提案を受け入れる態勢あり。</p>	<p>○</p>	<p>意見、提案を提出しやすい環境の継続。</p>
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>随時、変化、要望に対応する為、職員間で話し合いを行い、申し送りを行っている。勤務の調整についても必要状況に合わせて行っている。</p>	<p>○</p>	<p>職員間の情報共有を行う事によって勤務体制の理解を深める。</p>
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>異動については必要最小限に抑えられており、利用者様への配慮をされている。</p>	<p>○</p>	<p>引き続き利用者に対する配慮を行う事と異動に対する御家族様への周知の徹底を行う。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>ホーム内研修の充実を行っている。外部研修についても積極的に参加出来るように勤務体制の調整を行っている。</p>	<p>○</p> <p>外部研修については、その内容について他職員にも、その内容が反映される様ファイル等の利用が行われている。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>地域の情報を活かし参加出来る体制作り。</p>	<p>○</p> <p>勉強会等の参加を引き続き行っていき日常のケアの中に生かす。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>随時、相談等にのる態勢ができています。休憩室の利用有り。</p>	<p>○</p> <p>談話室(会議室)の利用を更に行う。</p>
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>コンピテンシーの取り組みあり。</p>	<p>○</p> <p>食事のレシピコンテスト・スタッフの表彰制度により、会社全体で取り組みをしている。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居前にご利用所様・ご家族様からの相談を受け、話し合いをし、理解を深め、ご納得頂き入居されている。定期的なアセスメントをし、日々対応している。</p>	<p>○</p> <p>ご入居される際の不安・困っていることを聞き、信頼関係を築いていきたい。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>面会時ご家族からの相談を聞きだしている。また、ホーム便り(1ヵ月/1回)を発行し、日常の様子を伝えている。</p>	<p>○</p> <p>不安・困っていることを聞きだし、安心して暮らしていかれる様努めていく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談があった時より状況の把握と分析を行い適切な支援を行えるように対応している。	○	状況を細かく把握し、適切なサービスが提供できるよう努めていく。
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	見学时、本人も同行してもらえようにする。挨拶など強化し好感を持って頂ける様にしている。	○	安心して生活が送っていただける様、ホームになれるまで、面会を多くして頂き居心地の良い環境と職員を心掛けていく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	本人の好きな事、楽しみ事や不快に感じる事などを情報収集して、それに合った支援を行って行く事で関係を密にしている。調理や掃除に関して教えて頂く事も多い。先輩、教師である。	○	ご本人の負担がなく、自主的に家事等を行い、職員と共感していく。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会時や毎月の手紙で本人の普段の様子などを伝え情報を共有している。	○	入居者様とご家族と常にコミュニケーションを持ち、関係を築いていく。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	電話の橋渡しや行事(お祭り等)の時に家族へも声掛け一緒に過ごす時間を提供している。	○	面会時等を利用し、さらに良い関係を構築していく。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	夫の月命日にお花を購入される方もいる。昔からの習慣などを大切にしている。	○	ご本人・ご家族の情報・アセスメント等を利用し、今迄の生活習慣を大切にしていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	食事の時の席の配置や、入居者様一人一人の誕生会を開いてお祝いをする。レクの際にスタッフを通じて会話が弾んだりするように努めている。	○	ご入居者様の会話の橋渡しや細かな様子を感じ取り日々取組んでいきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	契約が終了しても随時、相談等があった場合は対応している。	○	サービス利用が終わっても何事も相談できる関係を構築して行きたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の中で会話や行動、表情からの把握に努めている。家族様からの話も参考にしている。	○	常に利用者本位を心掛けご家族の思いも大切にしている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前のアセスメントや入居後の家族との話や本人との話の中から把握に努める。居間、ソファを入居前の生活環境と同じにしたりしている。	○	アセスメント・カンファレンスにご家族が参加頂き色々な情報を聞き、馴染みのある暮らしを提供していきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	毎月の生活の中より会話、行動等より把握出来る様に努めている。	○	入居者様の生活のリズムを把握し、個々に合ったライフスタイルを常に心掛けていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	スタッフ間で会議やカンファレンス等の場で意見を交換したりしている。	○	カンファレンスに同席頂く事でご家族の意見・スタッフ会議・ホーム内研修等の話し合いをいかに。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	モニタリングの実施。状況に応じて見直しを行っている。	○	3ヶ月に一度のカンファレンスの実施。御家族様の参加のカンファレンス。
38 ○個別の記録と実践への反映  日々の様子やけあの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。	食事、水分、排泄を記録し、一目で分かるように行っていて情報の共有をしている。	○	毎日の様子を変化、行動、言動を個人記録に残している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人、家族の状況に応じて通院などを行っている。在宅復帰に向けた取り組みは行っていない。	○	ご本人の負担がなく、自主的に家事等を行い、職員と共感していく。状況や変化に応じて臨機応変に対応している。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	二ヶ月に一度の運営推進会議の場を利用している。	○	消防署の協力を得て避難訓練の実施。
41 ○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	芸能ボランティアに来て頂く。2週に一回の訪問理美容の利用。避難訓練は消防の協力を得て行っている。	○	訪問理美容、マッサージ等の利用。
42 ○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に参加して頂けるように声掛けしている。	○	2ヵ月/1回の運営推進会議に参加している。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	隔週一回、主治医の往診。主治医の指示で他科の受診、歯科往診を行っている。	○	提携病院については隔週1回の往診を行なっている。必要に応じて歯科往診、ホーム看護師の連携をとっている。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症に詳しい提携医院の往診。指示、助言を頂いている。	○	認知症に詳しい提携病院の往診。往診以外でも状態の変化に応じて受診できる様な態勢を作っている。
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所として看護師を確保している。	○	看護師との連絡ノート使用。緊急時は電話を通し指示を受けている。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時は家族と情報交換しながら回復状況等、速やかな退院支援に結びつけている。	○	ソーシャルワーカーや医師との話し合いを交えながら可能な限り早期で退院出来るように努めている。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	ご本人・ご家族・主治医と話し合い職員全員で情報を共有し支援している。	○	ご利用者様本位を考えながら、より良い方針を示していく。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	主治医との連携を蜜にして、チームとして適切に対応出来るよう努めている。また、ターミナルの研修等に参加し、学んでいる。	○	提携医院365日24時間対応。ホーム看護師による24時間、いつでも対応出来る体制を整えている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	ケースがなく実施していない状況である。	○	色々な情報を集めて本人が、より適切に過ごしていける様努めていく。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	スタッフ一人ひとり気を配り実施されている。	○	常に言葉使いや態度に気を付けて対応している。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	自己決定出来る様に言葉掛けに配慮している。	○	個々の状態にあわせて自己決定が出来るよう、日々努力している。
52 ○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者様お一人お一人、その方のペースで過ごされている。	○	個別的に外出できる様な取り組みを考えていきたいと思う。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	ホームに月2回、訪問理美容が来訪され希望により行われている。	○	外出の際に女性入居者様に化粧を行っている。
54 ○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしているか。	入居者様の好みに応じ代替、また嚥下状態に応じ、きざみ、一口大と大きさを変えている。又、一緒に準備、片付け等も行っている。	○	自分で選べる食事の提供、月一回でもセレクトメニューの取り入れ。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	現在、お酒、タバコ等の希望はない。	○	作る楽しみを感じて頂きながら、おやつ作り等の行事を計画している。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人ひとりの排泄パターンを踏まえ支援している。排泄の訴えの無い方も時間によってトイレ誘導を行っている。	○	プライバシーを守り、声掛けにも注意を行っている。ポータブルトイレ、尿瓶も状況により使用している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は午後から実施している。入浴拒否の方に対してもタイミングを測りながら進めている。	○	体重測定を行い増減のチェックを行っている。又入浴剤を使用し、楽しんで頂いたりしている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	不安による不眠等にもスタッフ統一した言葉掛けを行っている。	○	睡眠状況を申し送り、日中の休憩の声掛けを行ったり状況を観察している。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	外への散歩、アクティビティーの充実を図ろうと努力している。	○	調理・畑・散歩・買い物等ご入居者に合わせて自由な楽しみ方で支援している。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買い物時にも財布をしっかりと管理し、必要な物、必要じゃない物を区別をつけ管理している。	○	買い物の際自立されている場合でも身守りを行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩に出掛けたり色々な所に外出している。	○	外出行事は月に2-3回程季節を感じて頂けるよう支援している。遠出でなくても均衡の公園散歩で気分転換をして頂いている。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段はいけないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	外出等はなるべく多く作るように心掛けている。	○	パッチワーク展・コンサート・野球観戦等幅広く外出している。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	正月や絵手紙などの行事の際に作った作品や、手紙等を送ったりしている。	○	ご入居様がかいた絵手紙を出したりする回数も増やして行きたい。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	外部から来られた際は笑顔、挨拶をしっかりと心地よく迎えている。	○	納涼祭・敬老会・そば打ち等行事は地域の方々・ご家族様との交流の場となり円滑に行われている。その他ボランティアの活動訪問もあり、交流がはかられている。ご家族様が帰られる際には、ご入居者様・職員が玄関迄お見送りをしている。
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	しっかりと取り組んでいる。	○	ホーム内での研修を通し、スタッフ間で共有し、理解を深めている。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間以外の施錠は行っていない。	○	日中は、玄関等ホーム内の施錠はせず、ご入居者様が外に行かれる際には、他スタッフとの連携をはかり見守りしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	ご入居者様の様子め行動を把握し、スタッフ間で、日報・日誌にて、共有している。また、連絡ノートを使用し、申し送りもしている。	○	職員・事務所・他ユニットで連携し、所在の確認を行う。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	一人ひとり違った危険があるので、それぞれに合った危険を把握、防いでいる。	○	入居時の荷物のチェックの強化。再度の危険物(刃物・ライター・マッチ等)の把握と確認。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	定期的に研修などにも参加して、しっかりと事故防止に取り組んでいる。	○	ヒヤリハットを使用し、今後の対策を職員間で討議する。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	万が一、事故が発生した際は速やかに行動、対処をしている。	○	定期的な勉強会を開き、意識付けを行っていく。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	毎日の防災点検を実施している。	○	避難訓練に地域の方に参加を頂き交流している。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	入居前に家族と共に入居後の生活について、どのように進めていくかを話し合い理解した上で入居して頂いている。入居前に入居者様の私生活や習慣についても情報を頂き生活の中に取り入れる努力をしている。	○	生活を送る上で起こりうる様々なリスクを適時説明・理解を得よう努めているが、充分ではない部分がある。都度状態の変化に応じて話し合いの時間を設ける必要がある。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日、起床時に血圧・脈拍・体温チェックし、記録に残し、変化がないかを確認している。変化があった際には、職員同士連絡をとり、顔色や行動の変化に気をつけている。医師、看護師等と連携を取り合い助言を得ている。	○	毎朝のバイタル測定以外にも、表情や食欲などを観察しながら適時測定し、状況により医療機関への受診を行なっている。ホーム看護師の緊急時の24時間の報告態勢を行なっている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人一人が服薬している薬の一つ一つの薬の特徴をファイリングし、職員は、その情報を共有し、新薬についても、処方される度、確認している。症状の変化時があれば看護師に相談している。	○	フロア内にすぐに確認の出来るよう個々の処方箋を服薬ファイルとして設置している。内服薬の変更も受診・往診記録で適時確認できるようにしている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	起床後に牛乳を提供又、時間を程度設定し、水分を提供している。どうしても必要な方には、下剤を使用している。体操、散歩等を取り入れ体を動かす事により便秘予防にも努めている。	○	出来る限り薬に頼らないように乳製品の摂取、食物繊維の多い物の提供等、支援している。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	可能な限り、自分で行ってもらい、職員は必要な場合に援助をしている。又、歯磨きの習慣に乏しい方には声掛けをしている。	○	嚥下の悪い方や必要な方には毎食後の口腔ケアを行なっている。必要な方は歯科往診による定期健診、口腔ケア指導も受けている。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	本社より、栄養士がカロリー計算したメニューを提供している。本人の好み、習慣を考慮し代替食を提供している。水分量はチェック表に記入し、フロアにいつでも飲んでも良いよう、お茶ポットを用意して水分を取ってもらっている。食事量についても全入居者様チェック表へ記入しスタッフ間で把握し支援している。	○	食事・水分の摂取量をチェック表に記入し、スタッフ間で情報を共有している。摂取量を見ながら、少ない方には嗜好品を多く取り入れ提供している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	うがい・手洗いの徹底を行っている。また、利用者様及び御家族に同意して頂き、インフルエンザ予防接種を受けている。ノロウイルス対策として、ペーパータオルを使用する等、予防の徹底に努めている。	○	感染症マニュアルを作成し予防・対策に努めている。雑巾、モップ、食器拭き等、適時消毒を行なっている。洗面所には誤って誤飲しないように配慮し、アルコール消毒を設置している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食材は、毎日新鮮なものを購入、又、配達され、保管している。台所清掃は定期的に行っている。	○	調理用具は適時アルコール消毒を行なっている。布きん類は毎食後漂白殺菌している。食材に関しては前日や当日に購入したり、冷凍保存し安全な食材を使用している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関には季節の置物がある。玄関入り口には、花を飾っており、又スロープがあり、足の不自由な方も立ち入り易いように工夫している。夕方等、近所の子供が中庭に遊びにくる事もある。	○ 玄関は施錠せず、いつでも出入りが出来る様にしている。季節の花を飾ったりして季節感を感じる事が出来る様にしている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家庭にあるものを設置し、自室以外でもくつろげる場所の空間作りを行っている。不快な音は無く安心して生活できている。	○ 毎日のユニット調理等、家庭的な空気を作る様に心掛けている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングに、ソファやテーブル・テレビを配置し、入居者同志が関われる場所を設けている。廊下にも椅子、テーブルを配置し、テーブルにはアルバムを置いたりし、一人一人がのんびり過ごせる様に努めている。	○ フロア廊下のベンチには座布団と本を置き、静かな空間で一人で過ごせる場所を用意している。 フロア内に個々の入居者様の居場所作りが必要である。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居前に以前より使っていたなじみの家具を持ってきて頂くよう声をかけし、生活空間が変わっても混乱しないよう配慮している。又、家具配置も以前の配置など使い勝手を聞き場所の検討を本人、家族と相談しながら行っている。	○ 元々、使用していた家具等を用意して頂き、なるべく環境変化を少なくするよう努めている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	朝の掃除時、他室温等などにより適時換気を行なっている。トイレには消臭剤を置き臭いにも配慮している。	○ トイレ掃除は一日一回、他都度、汚れた際に行っている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	フロア廊下、トイレ内、浴室等、手すりを設置し入居者の安全と自立に配慮している。足腰の丈夫な方には和室も用意されている。	○ 浴室は車椅子のまま入るには、多少狭いと感じている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>居室前には、お一人ずつ表札が掛けられており、又、のれんを使用されている方もいる。トイレ前床には分り易いように矢印がついている。</p>	○	<p>センター方式のシートを活用したり、日々のアセスメントにより少しでも自立した生活が送れる様に支援している。</p>
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>庭には、畑や花壇があり、作物を育てており、庭の草むしり、畑の水やりを行っている。畑で取れた作物を、その日の献立に取り入れ楽しみの一つになっている。ホーム駐車場では夏には納涼祭を行い近隣の方々も毎年、楽しみに参加されている。秋には御家族様を招待し敬老会の催しも行っている。</p>	○	<p>庭の畑では野菜を育てており、建物周囲ベランダ、玄関で花を育てている。</p>



V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんど掴んでいない</li> </ul> <p>日々の生活の中で観察し、個々の意向を理解するように努める。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> <li>①毎日ある</li> <li>②数日に1回程度ある</li> <li>③たまにある</li> <li>④ほとんどない</li> </ul> <p>ゆったりと過ごせる様に心掛け、場所を移動し気分転換をはかれる様、多くのスペースを用意し、ご入居者様同士の密談の姿がある。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul> <p>なるべく個々のペースに合わせた支援を行っている。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul> <p>入居者様の性格を把握し好きな話題をもちこみ、笑顔が見られるように対応している。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul> <p>毎日、午前中は買い物や天気の良い日の散歩、月2回の外出行事があり、外に出る機会を作るよう心掛けている。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul> <p>特変があれば提携している医師に連絡し指示を受けている。</p>
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul> <p>入居者様を観察し、その場に合った対応をする様に努めている。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての家族</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどできていない</li> </ul> <p>カンファレンスの際に同席して頂き話を聞ける機会があり、面会時には状況を報告し連絡を密にしている。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ毎日のように</li> <li>②数日に1回程度</li> <li>③たまに</li> <li>④ほとんどない</li> </ul> <p>地域の子供が虫取り等にホームに訪ねてくる。訪問の機会は少ない。</p>

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ② <u>少しずつ増えている</u> ③あまり増えていない ④全くいない 絵手紙のボランティアに来て下さる方も居たり、町内会役員の方が毎回、運営推進会議に参加して下さい。
98 職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が ② <u>職員の2/3くらいが</u> ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない 今以上にストレスの解消の支援が必要である。
99 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③ <u>利用者の1/3くらいが</u> ④ほとんどいない 希望通りの生活にはまだ至らず、今以上に自己実現、自立支援への援助が必要である。
100 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ② <u>家族等の2/3くらいが</u> ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない 本当の希望を遠慮なく意見される方は少ない様に思われ、今以上に家族との情報共有、意見交換が必要である。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

- ・専属の調理スタッフがあり、本部からの献立メニューに沿った栄養バランスの取れた食事が提供されている。
- ・ホーム内の毎月の研修、又、外部への研修の参加も積極的である。
- ・毎年一回、各ホーム事例研究に取り組み、日々のケアの見直し、又、ケアの自信に繋げている。
- ・スタッフが必ず絵手紙、畑、保清等の委員会に属し日々のケアの中に取り組んでいる。